

附 錄



1. 国 宝

昭和28年12月31日現在

種 類	品 目	数 量	指 定 年 月 日	所 有 者	備 考
美術工芸	銅 鐘	一 口	明治33年 4月 7日	敦賀市常宮常宮神社	
文 書	紙本墨書希玄道元筆 普勸坐禅儀	一 卷	昭和16年 7月 3日	吉田郡志比谷村比志 永 平 寺	天福元年元旦書写の 奥書がある。

註 国宝とは文化財保護委員会が有形文化財のうちから重要なものを重要文化財に指定し、重要文化財のうち世界文化の見地から価値の高いものでたくいなく国民の宝たるものとして指定したるもの。

資料：県教育委員会

2. 重 要 文 化 財

昭和28年12月31日現在

種 類	品 目	数 量	指 定 年 月 日	所 有 者	備 考
絵 画	絹本着色釈迦三尊 二十五菩薩来迎図	一 幅	明治33年 4月 7日	福井市緑町 安養寺	
美術工芸	鉄製 銀 象 眼 冑	一 頭	〃	福井市岩畑町 藤 島 神 社	
刀 剣	糸 卷 大 刀	一 口	〃	〃	正中三年備中国吉次の 銘がある。
〃	大 刀 (銘則重)	一 口	昭和 5年 5月23日	〃	
文 書	紙本墨書 結城宗広書状	一 通	〃	〃	九月二十六日(正中元 年)とある。
絵 画	紙本着色 世界及日本図	一 雙	明治39年 4月14日	福井市川上町 淨徳寺	六曲屏風
〃	絹本着色 主夜神像	一 幅	明治33年 4月 7日	敦賀市原 西 福 寺	
〃	絹本着色 観経变相曼荼羅図	〃	〃	〃	伝張思察筆
〃	絹本着色 雲中阿弥陀如来像	〃	明治34年 8月 2日	〃	〃
経 文	紙本墨書経巻 大涅槃経(巻第二十九)	一	大正 3年 4月17日	〃	天平五年三月戸吏安満 呂の奥書がある。
〃	紙本墨書経巻 七仏所説神咒経	一	〃	〃	巻第三、光明皇后御願 経天平十二年五月一日 の奥書がある。
〃	紙本墨書経巻 大涅槃経巻(第二十九)	一	〃	〃	天平宝字七年九月己知 万呂の奥書がある。
〃	紙本墨書経巻 弥勒下生経	一	〃	〃	
〃	紙本墨書経巻 七仏十一菩薩大陀羅尼 神咒経 (巻第一)	一	〃	〃	光明皇后御願経天平十 二年五月一日の奥書が ある。
〃	紙本墨書経巻 華嚴経(巻第三十、巻 第三十六、巻第三十八)	三	〃	〃	巻第三十八に神護景雲 二年五月十三日の奥書 がある。(孝謙天皇御 願経)

(続)

種 類	品 目	数 量	指 定 年 月 日	所 有 者	備 考
經 文	紙本墨書經卷 仏説正泰敬經 (二十卷)	一	大正3年4月17	敦賀市原西福寺	
〃	紙本墨書經卷 文殊師 利摩訶説光經(卷第二)	一	〃	〃	
〃	紙本墨書經卷 六門陀羅尼經	一	〃	〃	
〃	紙本墨書經卷 仏説阿 弥陀鼓音声王陀羅尼經	一	〃	〃	
〃	紙本墨書經 卷仏説大普賢陀羅尼經	一	〃	〃	
〃	紙本墨書經 仏説護諸童子陀羅尼經	一	〃	〃	
〃	紙本墨書經 仏説安宅經	一	〃	〃	
〃	紙本墨書經 支師風陀所説神咒經	一	〃	〃	
〃	紙本墨書經 訪 仏 經	一	〃	〃	卷第一、卷第二、卷第四
〃	紙本墨書經 大吉義經咒經	三	〃	〃	
〃	紙本墨書 般若心經二条持基筆	一	〃	〃	
建 造 物	氣比神宮赤鳥居	一	明治34年3月27日	敦賀市曙 氣比神宮	
書 蹟	紙本墨書 後円隔院宸翰	一 幅	明治33年4月7日	吉田郡志比谷村志比 永平寺	
〃	紙本墨書 高祖廟書	一 幅	〃	〃	
金 石 文	銅 鐘	一 口	大正10年4月30日	〃	嘉歴二年八月二十日造 の銘がある。
經 文	紙本墨書孤雲懷 梵筆正法眼藏仏性第三	一 冊	昭和16年7月3日	〃	仁治四年書写正嘉二年 校舎の奥書がある。
文 書	金銀絵料紙墨書 明全 戒牒(元治元年十一月 八日)	一 卷	〃	〃	奥に道元の識語がある
絵 画	絹本着色 地藏菩薩像	一 幅	明治33年4月7日	坂井郡三国町滝谷 滝谷寺	
〃	絹本着色 地藏菩薩像	一 幅	〃	坂井郡三国町下西 性海寺	
〃	絹本着色 羅漢図	二 幅	〃	坂井郡大安寺村田谷 大安寺	
建 造 物	丸岡城天守	一	昭和9年1月30日	坂井郡丸岡町	
〃	須波阿須疑神社本殿	一	昭和16年11月6日	今立郡上池田村稻荷 須波阿須疑神社	
美 術 工 芸	銅 鐘	一 口	明治35年4月17日	丹生郡織田町織田 織田神社	

(続)

種 類	品 目	数 量	指 定 年 月 日	所 有 者	備 考
絵 画	絹本着色 八相涅槃図 附 紙本墨写講式 (断簡一卷)	一 幅	大正 3年 4月17日	丹生郡織田町織田 釧 神 社	
彫 刻	木 造 不動明王立像 (堂堂安置)	一 軀	昭和16年11月 6日	丹生郡糸生村大谷寺 大 谷 寺	
≡	木 造 大日如来坐像	一 軀	明治34年 8月 2日	小浜市尾崎 円 照 寺	
≡	木 造 不動明王立像	一 軀	昭和16年11月 6日	≡	
≡	木 造 薬師如来坐像	一 軀	明治34年 8月 2日	小浜市国分 国 分 寺	
建 造 物	神 宮 寺 本 堂	一	大正13年 4月15日	小浜市神宮寺 神宮寺	
≡	神 宮 寺 仁 王 門	一	≡	≡	
彫 刻	木造 (男 神 坐 像 女 神 坐 像	二 軀	昭和16年11月 6日	≡	
≡	木 造 阿弥陀如来坐像	一 軀	大正 2年 8月20日	小浜市金屋 万 徳 寺	
絵 画	絹本着色 弥勒菩薩像	一 幅	大正13年 4月15日	≡	
彫 刻	木 造 十一面観音立像	一 軀	明治34年 8月 2日	小浜市羽賀 羽 賀 寺	
書 蹟	紙本墨書 羽 賀 寺 縁 起	一 卷	≡	≡	(陽光院太上天皇、後 陽成天皇宸翰)
彫 刻	木 造 千手観音立像	一 軀	昭和16年11月 6日	≡	
≡	木 造 毘沙門天立像	一 軀	≡	≡	像内に治承二年七月二 十四日の銘がある。
絵 画	絹本着色 大 日 如 来 像	一 幅	明治34年 8月 2日	小浜市酒井 長 源 寺	
刀 剣	大 刀 (銘宗以下一字不明)	一 口	明治45年 2月 1日	小浜市遠敷 若 狭 彦 神 宮	伝 宗 近
絵 画	紙本着色 若狭国守神人絵系図 附 紙本墨書節文系図	一 卷	昭和24年 2月18日	≡	
文 書	絹本墨書 印 可 状 附 紙本墨書 歴 踐 集 紙本墨書 大高重成状 絹本着色 大年和尚象	一 幅	大正 3年 4月17日	小浜市青井 高 成 寺	建武四年十二月梵竺仙 とある。 観応二年八月法延の自 序がある。 五月十三日とある。 弘治二年の賛がある。
彫 刻	銅像如意輪観音半坐像	一 軀	大正 7年 4月 8日	小浜市太良庄 正林庵	
≡	木造 聖 観 音 立 像	一 軀	大正10年 4月30日	遠敷郡鳥羽村無悪 安 楽 寺	
≡	銅像 薬師如来立像	一 軀	≡	小浜市籠前 蓮 花 寺	背面に若狭国一宮本地 、宝治二年戊申六月日 の銘がある。
≡	木造 十一面観音立像	一 軀	昭和 3年 8月17日	遠敷郡瓜生郡協袋 法 順 寺	

(続)

種 類	品 目	数 量	指 定 年 月 日	所 有 者	備 考
建 造 物	明通寺薬師堂	一 軀	明治34年3月27日	小浜市門前 明通寺	
≡	明通寺塔婆	一	大正6年8月13日	≡	三 重 塔
彫 刻	木造薬師如来坐像 (本堂安置)	一 軀	昭和16年11月6日	≡	
≡	木造深沙大将立像	一 軀	≡	≡	
≡	木造降三世明王立像	一 軀	≡	≡	
≡	木造不動明王立像	一 軀	≡	≡	
建 造 物	妙楽寺本堂	一	明治34年3月27日	小浜市野代 妙楽寺	
彫 刻	木造千手観音立像 附紙本墨書 千年千眼陀羅尼經一卷	一 軀	大正10年4月30日	大飯郡佐分利村万願寺 意 足 寺	応徳元年十一月十日加 点の奥書がある。
≡	木造不動明王坐像	一 軀	≡	大飯郡大島村大島 常 禅 寺	
≡	木造阿弥陀如来像	一 軀	昭和3年8月17日	大飯郡大島村大島 長 楽 寺	
≡	木造多聞天立像	一 軀	≡	≡	
≡	木造毘沙門天立像 吉祥天童子立像 善膩師童子立像	三 軀	昭和16年11月6日	大飯郡大島村浦底 潜 雲 寺	
工 芸 品	銅製孔雀文磬	一 個	昭和13年3月10日	坂井郡兵庫村下兵庫 大 善 寺	建長三年四月日管生寺 云々の銘がある。

3. 重要美術品

昭和28年12月31日現在

種別	名称	数量	指定年月日	所有者	備考
典籍	紙本墨書 朗詠題詩歌卷下	一卷	昭和14年7月13日	敦賀市蓬萊 布施卷太郎	
経文	紙本墨書 大槃若經 卷第一百九十一	一卷	〃	〃	薬師寺経
絵画	紙本着色 十六羅漢像	十六幅	昭和16年2月16日	坂井郡鳴鹿村楽間 酒井利雄	図書光信の印がある。
工芸品	銅製孔雀文罽	一箇	昭和13年3月10日	坂井郡兵庫村下兵庫 大善寺	建長三年四月日香生寺 云々の銘がある。
〃	金銅 聖観音像御正体	一枚	昭和18年10月1日	今立郡鯖江町東小路 窪田喜三郎	裏板に文永六年十月二十三日の墨書がある。
〃	銅製白牙彈琴鏡	一面	昭和14年9月6日	今立郡上池田村稻荷 宮本 頌	今立郡上池田村常安出土品(小破あり)
彫刻	木造能面天仲	一面	昭和24年5月28日	今立郡上池田村稻荷 須波阿須疑神社	裏に元亀二年正月野尻 千世熊丸の寄進銘がある。
考古学資料	石造宝塔	一基	昭和14年2月21日	丹生郡糸生村大谷寺 鈴木治良左衛門	伝泰澄大師供養塔
〃	石造九重塔	一基	昭和15年3月6日	丹生郡糸生村大谷寺 大谷寺	元亨第三癸亥三月四日の刻銘伝泰澄大師墓
彫刻	木造 泰澄清定行者 臥行者	三軀	昭和16年9月24日	〃	泰澄像の膝に明歴二年五月二十六日の銘がある。
建築物	住宅	一構	昭和24年5月28日	敦賀郡栗野村市野々 柴田事次	

資料：県教育委員会

4. 無形文化財

昭和28年12月31日現在

種別	名称	所在地	備考
芸能	かんこ踊	大野郡五箇村上打波	
技術	墨流し	武生市蓬萊町	広場 治左衛門

註 演劇、音楽、工芸技術その他の文化的所産で、わが国にとって歴史上又は美術上価値の高いもの。

資料：県教育委員会

5. 史 跡、名 勝、

区 別	名 称	所 在 地	説 明
史	燈 明 寺 廢 新田義貞 戦致伝説地	吉田郡西藤島村福万	明暦二年に藤島郷の農民が地中から古兜を発見したことに始まり、世にいわれる新田塚と称せられる所である。藤島神社の旧社地で今はその附属地である。
	西 山 光 照 寺 趾	足羽郡一乗谷村安波賀中島	文明三年朝倉氏が一乗谷に城を構え五代百余年間越前を支配して小京都といわれた頃の全盛時代の寺院趾で一乗谷北方足羽川に面した山麓にある。本堂及庫裡の趾があり、本堂趾の前面参道の両側には室町時代の銘のある石仏が併立している。
	丸 岡 藩 砲 台 趾	坂井郡雄島村碓	嘉永五年二月高島秋帆の門人栗原氏の計画になったもので胸牆は外面土砂で被覆し内面側面に石積としてはぼ弓形をなしている。東西約33米、高さ約1米8、五箇の砲門を開き三個は北方に向い、両端のものは各側方に向っている。丸岡藩の砲台で、幕末沿岸防備の為に設けた。
	金ヶ崎 城 趾	敦賀市泉	敦賀市の東方に位する半島部にある。延元元年十月新田義貞が、皇太子恒良親王、尊良親王を奉じて立籠った処で翌年三月城遂に陥り、尊良親王は自刃し新田義貞以下数百人が戦没したところである。城地の主要部は今金ヶ崎の境内で其背面の高処は城戸、焼米出土地、月見御殿趾等がある。
	和 山 城 趾	南条郡南柳山村 同 阿久和 中小 入会 同 湯尾村社谷	日野川の東方に聳ゆる山岳の頂上を利用したもので(海拔 492米)殊に東北面は岩石聳立して険険である。此の地方では俗に城山と云い、代々瓜生氏の居城であった地で、山城としては要害の地である。
跡	武田耕雲齋等墓	敦賀市泉	元治元年10月水戸藩士武田耕雲齋の党西上の途次越前に入り12月新保宿で大雪に遭い遂に幕府に降った。翌年2月耕雲齋以下354名を斬首したが今の墓地は当時の刑場で遺骸を埋めた処である。
	白山 平 泉 寺 城 趾	大野郡平泉寺村平泉寺 白山神社境内	養老元年四月泰澄が白山を畧開して靈異を感じ、ついで寺を創めたと云えられるわが国屈指の大寺院で心仁文明の頃は一山三千坊の盛時を現出して幾多の僧兵を蓄え、その勢力は熾んであった。此処には楠正成の墓があり、澗川の建碑の約30年前に建ったものである。
	西 塚 古 墳	遠敷郡瓜生村脇袋	大字脇袋の水田中にある。元前方後円型の古墳であり長さ約67米、封土は三段に築かれ南面して完全な瓢型をしていたが大正 5年に小浜線工事の際前方部を削り後円部に及んだ時石室を発見したが漢式鏡、甲冑純金率入耳飾、直刀、鉄鏃、円玉、管玉等を検出した。今石室及後円部の大半を保存しているが、附近の古墳と共に、若狭国造の祖の墳墓と称せられている。
	上 の 塚 古 墳	同 上	西塚古墳の東南約80米の処にある。完全な前方後円型の古墳で三段階を有し、いわゆる長塚の種類である。主軸はほぼ南北に向い後円部は南に前方部は北にある長さ約83米、後円部の径約51米、高さ51米ある。周囲をめぐる水田は塚趾と推定せられる。此の地方で最整美している古墳である。
	中 塚 古 墳	同 上	上の塚古墳の東北民家の間にある。瓢型古墳である。三段に築かれ南面している。長さ約58米、後円部の高さ約 7米、周囲は多少削られたが略その形状はうかがわれる。有数の古墳である。

天 然 紀 念 物

昭和27年12月31日現在

指 定 年 月 日	地籍又は物件	管 理 者	順 路	備 考
大正13年12月 9日	882坪	藤 島 神 社	京福電鉄三芦線新田塚より 0.2杆	重要な伝説地として指定された
昭和 5年 7月 8日	4,858坪	足羽郡 一乗谷村	北陸線福井駅より10杆 途中までバスの便あり	社寺の趾跡として指定された
昭和 5年 8月25日	184坪	坂井郡 雄島村	京福電鉄三芦線 三国港駅よりバス便あり	防塁として指定された
昭和 9年 3月13日	21,489坪	敦 賀 市	北陸線敦賀駅より 2.7杆	古城趾として指定された
昭和 9年 3月13日	509,677坪	南条郡 南柳山村 湯尾村	北陸線鯖波駅より 4杆	古城趾として指定された
昭和 9年12月28日	256坪	敦 賀 市	北陸線敦賀駅より 2.7杆	著名なる人物の墓として指定
昭和10年 8月27日	40,799坪	大野郡平泉寺村 白山神社	京福電鉄越前線 大呂師口駅より 3杆 勝山駅より 4杆	古城趾として指定された
昭和10年12月24日	1,355坪	遠敷郡 瓜生村	小浜線三宅駅より 1杆	古 墳 考古学上に重要な遺跡として指定
同 上	665坪	同 上	同 上	同 上
同 上	160坪	同 上	同 上	同 上

(続)

区 別	名 称	所 在 地	説 明
史 跡	上 船 塚 古 墳	遠敷郡三宅村日笠	日笠山の麓にある。前方後円型の古墳であり封土はほぼ三段に築かれ西に面している。長さ約76米、後円部の径約29米、高さ約9米、前方部の径約43米、高さ後円部に等しく上の塚古墳に似ている。従来若狭国造の墳墓として此の地方の著名な古墳である。
	下 船 塚 古 墳	同 上	上船塚古墳の北にある。前後方円型の古墳で封土は三段に築かれ西に面している。長さ約80米、後円部の径40米、高さ約80米、前方部の径約32米、高さ約8米である。上船塚古墳と國道を隔て、相對して同様の伝説があり、この地方の著名な古墳である。
史 跡 及 名 勝	一乗谷 朝倉氏 館 址 附 南 陽 寺 址	足羽郡一乗谷村城戸の内	上掲史跡西山光照寺址説明にある朝倉氏の全盛を偲ぶもので今二ヶ所にその址がある。一は三方に腰垣、石垣土塁をめぐらし、外方に竪趾がある。又國地、石組等から旧規がうかがわれ正面に唐門がある。一は諏記館趾と云い、義景の妻の別邸趾と伝えられる。朝倉氏館趾の東方高処に南陽寺跡がある。義景が足利義昭のために観桜の宴を催した処と伝えられる。
名 勝	氣 比 の 松 原	敦賀市松島	東は敦賀の街に接し北は敦賀湾に沿っている。白砂に生えた松翠は千古の色を水に映して顕景絶佳である。
	滝 谷 寺 庭 園	坂井郡三国町滝谷	築造年月日は詳でないが、徳川中期の作か、林泉は本堂より書院に亘りて丘麓の斜面に築設せられ、山脚の露岩を利用して小池を築き古松之に臨みつじ等の矮樹を配し、石を立て燈籠を置き榎、樅、高野槇の巨樹を背景として丘地に係る山水型庭園の佳作である
	旧 玄 成 院 庭 園	大野郡平泉寺村平泉寺	旧平泉寺玄成院の庭園で慶長年間に作造せられたものらしい。前方に平地を構え後方は斜面に依っている。脚下に乾池があり北西に偏って小池があり園の背後には杉、榎等の老樹が生い茂り、つじが処々にあって教基の石燈籠が配置せられて閑寂の景趣に富んでいる
	万 徳 寺 庭 園	遠敷郡遠敷村金屋	延宝年間本寺移築の時築造せられたものらしい。殿堂の南面山麓を利用して庭を作ったもので、東南部に天然記念物指定の榎樹がある。此の庭は寺庭として幽邃なる佳園である。
	西 福 寺 書 院 庭 園	敦賀市原	築造の年代不詳であるが徳川中期らしい。山庭としては特殊の佳趣を有するものである。
	栗 野 村 柴 田 氏 庭 園	敦賀郡栗野村市野々	元禄の初年柴田氏の祖権右衛門の築造で後しばしば藩主の休所となった。借景としての野坂山の秀峯を遠望し築山泉水庭として清雅の中雄勁の趣を存している。
	宅 良 村 伊 藤 氏 庭 園	南条郡宅良村瀬戸	伊藤氏十代の祖医者助左衛門に依り享保前後当時流布した庭園図本を規として作造せられたものである。築山泉水の小庭として良く保存せられている。
	若 狭 蘇 洞 門	遠敷郡小浜市	小浜湾を抱く内外海半島の北岸にある。背面又は外面とも響き若狭第一の絶景である。その大部分は久須夜岳をなせる花崗石が特有の方状節理に沿うて怒濤に侵蝕せられ大門、小門、唐船島(一名朝鮮島)華洞門、烏帽子岩、潜り穴等多数の洞窟、危礁断崖を生じたもので、最もよく花崗岩特有の海岸の風景を表現している。

(続)

指 定 年 月 日	地 積 又 は 物 件	管 理 者	順 路	備 考
昭和10年12月24日	1,374坪	遠敷郡三宅村	小浜線新平野駅より0.4杆	同 上
同 上	2,186坪	同 上	同 上	同 上
昭和 5年 7月 8日	4,216坪	足羽郡 一乗谷村	北陸線福井駅より12杆 途中までバスの便あり	由緒ある旧宅著名なる庭園 社寺の趾跡として指定
昭和 3年 6月28日	114,788坪	農 林 省	北陸線敦賀駅より2.7杆	松林ある砂丘として指定
昭和 4年12月17日	515坪	坂井郡三国町 滝谷寺	京福電鉄三芦線 三国駅より0.5杆	著名なる庭園として指定
昭和 5年10月 3日	325坪	大野郡平泉寺村 白山神社	京福電鉄越前線 勝山駅より4杆	同 上
昭和 7年 3月25日	902坪	小浜市金屋 万徳寺	小浜線新平野駅より4杆	同 上
昭和 7年 4月19日	1,432坪	敦賀市原 西福寺	北陸線敦賀駅より6杆	同 上
同 上	708坪	敦賀郡栗野村 市野々 柴田寺次	北陸線敦賀駅より4杆	同 上
同 上	109坪	南条郡宅良村	北陸線今庄駅より12杆	同 上
昭和 9年 1月22日	120,649坪 外海面	小 浜 市	小浜線小浜駅下車	著名なる奇岩著名なる海岸 として指定

(続)

区 別	名 称	所 在 地	説 明
名 勝	三 方 五 湖	三 方 郡 八 村 〳 西 田 村 〳 南 西 郷 村 〳 北 西 郷 村	最南を三方湖、其の北を水月湖、其の東を管湖、其の北を久々子湖、更にその西を日向湖という。最も大きいのは水月で、三方、久々子之に並ぎ、管湖は最も小さい。有名なのは三方湖で三方、水月、久々子の三湖を総称に三方湖という。日向湖は鹹水の浸入があるが他の四湖は淡水湖である。湖水の附近は勝景に富んでいる。
天 然 記 念 物	石 徹 白 の 杉	大野郡石徹白村石徹白	杉の代表的巨樹で十二抱もあるというので、此の地方では俗に十二抱えの大杉とも言われている。
	常 神 の 蘇 鉄	三方郡西田村常神	蘇鉄の代表的巨樹である。
	小浜神社の九本だも	小浜市竹原 小浜神社境内	いぬぐすの巨樹で、根元から九本となっているので此の名がある。根元の全周囲約11米である。
	万徳寺のやまもみぢ	小浜市金屋	目通幹囲約3.7米やまもみぢの巨樹である。
	本願清水いとよ棲息地	大野郡大野町大野	いとよの棲息地として本邦有数のものである。この地に産するいとよは海に降ることなく五月頃より秋に亘り雄は池底に巣を構え蓄殖の後その巣を護り稚魚を養育するのである。
	越 の 犬	全 県	主として北陸地方に飼養せられるもので、中北系、日本犬に属するものである。中堅、四肢強健、飛節能く発達し毛は粗で綿毛が多い。
	あられがこ棲息地	大野郡阪谷村外 8 坂井郡鳴鹿村外 1 吉田郡浄法寺村外7の町村	かじか属の魚で大きさは体長300程に達する。晩秋より初冬に亘り河を降り、河口付近で蓄殖する。
	専福寺の大櫨	大野郡上庄村友兼 専福寺境内	目通幹囲約10米上方に大櫨起があり老樹であるが巨樹として有数のものである。
	杉森神社の御葉附銀杏	大飯郡青郷村六路谷	二株あって、一は社殿の東方山腹に立ち、目通幹囲約3米、一は社殿の南側にあって目通幹囲約2.8米である。共に葉上結実する。
	蒼島暖性植物原生林	大飯郡加斗村	蒼島は小浜湾に浮ぶ小島で、ナタオレの木を始め192種の植物が生えているが、ナタオレの木の最大もの周囲は2.5米にもなっているものがある。
	釣姫明神の大藤	小浜市西津 釣姫神社境内	二株あって本殿に向って左前目通周囲1米60厘、高さ105米、左後の藤は目通周囲1米32厘、高さ83米、樹齡は古い、勢はさかんで美しいので、境内を藤の森というほどである。
天然記念物及名勝	東 尋 坊	坂井郡雄島村	九頭竜川の河口に当たっている。三国港から雄島を経て雄島村郷浦に至る間の海崖で基礎は第三紀層より成り柱状節理をなしている。種々の火山岩之を貫いているその中、東尋坊岬に近く既出しているのは、直立の粗大な柱状節理を呈している複輝石安山岩で、その海に面し絶壁をなしている部分は古來東尋坊という。雄島は一種のかんらん輝石安山岩よりなり柱状節理斜に発達して豪快なる波蝕景を呈している。

(続)

指定年月日	地積又は物件	管 理 者	順 路	備 考
昭和12年 6月15日	三方郡 八村 西田村 南西郷村 北西郷村 一 円	三方郡 八 村 〃 西田村 〃 南西郷村 〃 北西郷村	小浜線河原市駅より1.3杆	著名なる湖水として指定
大正13年12月 9日	一 株	大野郡 石徹白村	京福電鉄越前線 大野三番駅より48杆	巨樹として指定
同 上	一 株	三方郡 西田村	小浜線河原市駅より18杆	同 上
昭和 6年 3月30日	一 株	小浜市竹原 小 浜 神 社	小浜線小浜駅より1杆	同 上
昭和 6年 6月30日	一 株	小浜市金屋 万 徳 寺	小浜線新平野駅より4杆	同 上
昭和 9年 5月 1日	479坪	大野郡 大野町	京福電鉄越前線 大野三番駅より 1.5杆	池地における特有の動物群 として指定
昭和 9年12月28日		福 井 県		日本に特有なる畜養動物と して指定
昭和10年 6月 7日	大野郡富田村 より吉田郡中 藤島に至る九 頭竜川	福 井 県		河海に於ける特有の動物群 全 部
昭和10年 6月 7日	一 株	大野郡上庄村友兼 専 福 寺	京福電鉄越前線 大野三番駅より6杆	巨樹として指定
昭和10年 8月27日	126坪	大飯郡青郷村 大路谷 杉 森 神 社	小浜線高浜駅より4.5杆	名木として指定
昭 和 2 4 年	2,136坪	大飯郡 加斗村	小浜線加斗駅より2杆	
同 上	二 株	小浜市西津 釣 姫 神 社	小浜線小浜駅より4杆	
昭和10年 6月 7日	94,927坪およ び 500歩以内 の海面	坂井郡 雄島村	京福電鉄三芦線 三国港駅よりバス及び舟の便あり	岩石及び鉱物の露出、火山 岩の種々の構造、浸蝕に関 する現象著名なる奇岩、著 名なる海岸島嶼として指定

置県以来の長官 (知事)

歴代議長

官名	氏名	就任年月日	在任年月	
		年月日	年月	
県令 知事	石黒 務	明治14. 2. 7		
	≧	≧ 19. 7. 19	8. 1	
	≧	≧ 22. 2. 27	2. 8	
	≧	≧ 24. 8. 13	1. 3	
	≧	≧ 25. 11. 16	4. 6	
	≧	≧ 30. 4. 7	0. 7	
	≧	≧ 30. 11. 13	1. 6	
	≧	≧ 32. 4. 7	2. 0	
	≧	≧ 34. 4. 17	0. 10	
	≧	≧ 35. 2. 8	5. 11	
	≧	≧ 40. 12. 27	4. 3	
	≧	≧ 45. 3. 28	1. 2	
	≧	香川 輝	大正 2. 6. 1	1. 0
	≧	≧ 佐藤 孝三郎	≧ 3. 6. 9	2. 7
	≧	≧ 川島 純幹	≧ 6. 1. 29	2. 2
	≧	≧ 湯地 幸平	≧ 8. 4. 18	1. 1
	≧	≧ 白男川 讓介	≧ 10. 5. 27	3. 0
	≧	≧ 福永 尊介	≧ 13. 6. 4	0. 2
	≧	≧ 豊田 勝藏	≧ 13. 7. 23	2. 0
	≧	≧ 市村 慶三	≧ 15. 8. 5	1. 10
	≧	≧ 小浜 浄 敏	昭和 3. 5. 25	2. 3
	≧	≧ 齊藤 直 橋	≧ 5. 8. 26	1. 4
	≧	≧ 小浜 浄 敏	≧ 6. 12. 18	6. 4
	≧	≧ 大達 茂雄	≧ 7. 3. 8	2. 1
	≧	≧ 近藤 隆 介	≧ 9. 4. 9	2. 0
	≧	≧ 羽生 雅 則	≧ 11. 3. 13	1. 8
	≧	≧ 中野 与吉郎	≧ 12. 11. 4	1. 5
	≧	≧ 木村 清 司	≧ 14. 4. 17	1. 8
	≧	≧ 久保田 峻	≧ 15. 12. 14	1. 1
	≧	≧ 三好 重 夫	≧ 17. 1. 9	0. 5
	≧	≧ 永野 若 松	≧ 17. 6. 15	1. 1
	≧	≧ 加藤 初 夫	≧ 18. 7. 16	1. 9
	≧	≧ 宮田 笑 内	≧ 20. 4. 21	0. 8
≧	≧ 齊藤 武 雄	≧ 21. 1. 25	0. 8	
≧	≧ 小幡 治 和	≧ 21. 10. 4	0. 5	
≧	≧ 吉川 覚	≧ 22. 3. 14	—	
知事代理	北 栄 造	≧ 22. 3. 20	0. 1	
≧(公選)	小幡 治 和	≧ 22. 4. 16	4. 0	
≧代理	河野 寛 敏	≧ 26. 4. 3	0. 1	
≧(公選)	小幡 治 和	≧ 26. 5. 3	現在 = 至ル	

氏名	就任年月日	在任年月
	年月日	年月
本多 昇 介	明治14. 7. 18	1. 8
山田 饒	≧ 16. 3. 17	1. 3
時岡 又左衛門	≧ 17. 6. 23	0. 9
本多 昇 介	≧ 18. 3. 2	0. 8
竹尾 茂 一	≧ 18. 11. 23	0. 1
本多 昇 介	≧ 18. 12. 4	0. 9
永田 定右衛門	≧ 19. 9. 7	2. 5
杉田 定 一	≧ 22. 2. 4	0. 8
本多 昇 介	≧ 22. 10. 27	1. 11
≧	≧ 24. 9. 16	2. 0
≧	≧ 26. 9. 1	3. 11
市橋 保治郎	≧ 30. 8. 31	0. 2
片山 政治郎	≧ 30. 10. 18	2. 0
鴛田 土三郎	≧ 32. 10. 7	4. 0
中山 茂 樹	≧ 36. 10. 21	2. 1
大橋 松次郎	≧ 38. 11. 10	1. 11
吉田 円 助	≧ 40. 10. 21	0. 11
熊谷 五右衛門	≧ 41. 9. 14	3. 10
大橋 松次郎	≧ 44. 10. 15	1. 2
植村 善四郎	大正 1. 12. 5	2. 10
広江 幸 吉	≧ 4. 10. 13	1. 1
池田 七郎兵衛	≧ 5. 11. 14	2. 11
≧	≧ 8. 10. 18	0. 1
藤田 一	≧ 8. 11. 18	2. 0
義江 民 次	≧ 10. 11. 10	0. 3
≧	≧ 11. 2. 25	1. 8
窪田 彦左衛門	≧ 12. 10. 14	4. 0
池田 七郎兵衛	昭和 2. 10. 14	4. 0
田保 仁左衛門	≧ 6. 10. 15	4. 0
恩地 政右衛門	≧ 10. 10. 21	3. 2
田保 仁左衛門	≧ 13. 12. 7	0. 10
酒井 利 雄	≧ 14. 10. 16	2. 9
松田 輝 治	≧ 17. 7. 3	4. 4
野村 栄太郎	≧ 22. 5. 21	0. 11
高波 武右衛門	≧ 23. 4. 30	1. 0
勝見 厚	≧ 24. 4. 30	1. 2
野村 栄太郎	≧ 25. 6. 15	0. 10
杉山 孝 二	≧ 26. 5. 3	1. 0
市橋 勘左衛門	≧ 27. 5. 17	1. 5
長谷川 清	≧ 28. 10. 28	現在 = 至ル



昭和30年3月10日印刷

昭和30年3月31日発行

福 井 県

福井県福井市一本木町88

印刷所 福井印刷株式会社

電話 4330・4331番

印刷人 沢 村 伍 郎

保存資料

福井県総務部統計文書課



